

# さわやかかん

沢村達郎さん  
廿歳・72歳



学生部バトミントンクラブに所属し、市民体育館で元気にプレー。スポーツを楽しんでいます。

週二回、好きな時間に来て、二時間ほど汗を流して帰ります。ここには友人や若い人もいますから、おしゃべりするのを楽しんでいますよ。車の運転をしているので、反射神経の老化防止にも役立ちます。

孫も学校でしているので、いつかプレーがしてみたいと思っています。



市主催の英会話講座に受講した三人インタビュー。

近森るみ子さん  
少しの時間でもあればラジオの英会話などを聞いたりして勉強しています。話などをたくさん聞いて外国の方と知り合いにならなかなかなそんな機会が。市役所のほうで国際交流の場を持てるような企画があればいいですね。



山内智恵子さん  
子供のころから外国の人と友達になりたいと思っていました。私たちみたいな英語に興味のある者同士がたくさん集まって勉強会のようなことができればもっと楽しいですね。



中倉紀子さん  
中学から英語が好きでした。今は短い英語の寓話を讀んだりして自分なりに勉強しています。いつか外国へ行ったときに英語で話ができればいいと思っています。

## 部落差別は、明治以後なぜ

### 残されてきたのでしよう⑩

#### 全国水平社の創立

奈良県掖上村柏原部落（現御所町）の阪本清一郎、西光万吉、駒井喜作らの青年有志は「燕会」という組織を作りました。初めは青年たちの親睦団体でしたが、やがて消費組合運動や部落内の民主化運動に発展していきま

### 同和教育シリーズ

そのころ、ロシア革命の後、社会主義思想が世界的に広まるなかで、各地の解放運動の組織化が広まりを見せ

てきました。

社会主義思想家、佐野学の「部落民解放論」は部落の青年たちに大きな影響を与えました。一九二二（大正十一）年頃、柏原の青年たちは、警察の尾行をさけるため、庄園の中の作業小屋に、古い縄

を作成し、全国各地の青年たちに呼びかけました。

一九二二（大正十一）年二月、大阪中央公会堂で、名士や有名政治家の出席のもとに融和運動をすすめていた、大日本平等会の融和大会が開かれました。この会場で奈良の青年たちは「全国水平社大会」という宣伝ビラを撒き、

また演壇上から、「部落差別は同情融和では解決できない、部落民が自ら立てて闘うべきだ」と演説したため、平等会の大会は大混乱となり、

全国水平社創立大会の宣伝の場となりました。一九二二（大正十一）年三月三日、京都府公会堂に、全国から約三千人の代表者が集まり「全国水平社創立大会」が開催されました。高知県からも、弘岡中の村（現春野町）の国沢龜らが参加しました。大会では、まず次の三カ条の綱領が決定されました。

一、吾々特殊部落民は、部落民自身の行動によって絶対の解放を期す。

一、吾々特殊部落民は、絶対に経済の自由と職業の自由を社会に要求し、以て獲得を期す。

一、吾等は人間性の原理に覚醒し、人類最高の完成に向かつて突進す。

これについて、西光万吉起草の「水平社宣言」が朗読されました。これまでの差別への怒り、これからの部落解放への願いが結集され「全国に散在する我が特殊部落民よ団結せよ」に始まり「人の世に熱あれ」「人間に光あれ」のこゝろで結ばれた。すばらしい宣言文は、三千人参加者の万雷の拍手の中で可決されました。

この宣言文は、欧米の新聞等でも高く評価され、「日本最初の人権宣言」とたたえられました。この宣言文の中で、差別語である「特殊部落民」という言葉をなぜ使ったのか考えてみる必要があります。